

「わたしを愛しているか」(2025.1.19)

三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか。」ペトロは、イエスが三度目も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハネ 21:17)

冬の間、重い雪だなあ、と一段一段、29段ある教会坂道の階段の雪投げをします。先日疲れて一息入れた時、先日のⅠ長老の奨励を思い出し、上掲の御言葉が響いてきました。「私を愛しているか。」「私の羊を飼いなさい。」そうか、この汗はイエス様を愛する汗であり、イエス様の羊を飼うために流す汗なのだ！そう思ったら、嬉しくなり、力を込めて雪投げを続けた。



私たちは週ごとに顔を合わせ、礼拝を捧げます。一人ひとりが自分の家から出かけ、一つ所に集まります。礼拝するためです。ハッと気づきました。礼拝に出ることがイエス様を愛することなのだ。「私を愛しているか。」私たちは応えているのです、「ハイ、主よ」と。相集い、声を合わせて賛美し、御言葉を聴くからです。イエス様を愛することです。そう思うと、寒くても、雪の中でも喜びが湧いてくるのではないのでしょうか。

「私の羊を飼いなさい。」とペトロに言われたこの御言葉は、「互いに愛し合いなさい。」と私たちに命じられている御言葉と同じで、イエス様を愛することです。雪投げや礼拝だけではなく、色々な奉仕でも、イエス様を見上げ、「私を愛するか」という問いの前に立つ時、不平不満から自由にされ、他人の評価に一喜一憂する必要がなくなり、流す汗も喜びの汗になるかと思うのです。

教会ミニカまくらが近づいてきました。外に向けて伝道の最後のチャンスです。横手教会は地域の文化を受容し、刷新していきます。

「主を求めよ、そして生きよ。・・・すばるとオリオンを造り、
闇を朝に変え、昼を暗い夜にし、海の水を呼び集めて、地の面に注がれる方。
その御名は主。」〈アモス 5:6, 8〉

このみ言葉を掲げ、天地を創造し、雪を降らせ、命を育む真の神を証ししたい。「私を愛しているか」この御言葉を思い起し、一人ひとりがその状況に応じて、愛の汗を流したいと願います。